広報 妻籠宿

公益財団法人妻籠を愛する会　　令和8年5月20日発行　No.158

（妻籠城址より駒ケ岳を望む）

写真中央付近に小学校、手前に神戸地区が広がります。海外からのお客様も、“What a beautiful place!!”　と、中山道を心から楽しんで下さっています。山肌の鉄塔が大きな物に代わりましたが、この後、妻籠の山にある物も同様に代わる予定だそうです。

その昔、目立たないようにと茶色く塗って下さったことで、この地域の景観が世界中の人々から愛されるようになりました。今後訪れる方々も落胆することなく楽しんで頂けるよう願うばかりです。

小笠原　美雪

第４８回妻籠冬期大学講座開催！　2026.2.7

渡島　山下航

講演の題は「重伝建の過去・現在そして未来―持続可能なまちづくりに向けて」であった。私はこのタイトルから、各地域の重伝建のような歴史的資源を守る地区が、どのような取り組みを積み重ね、持続可能なまちづくりへつなげているのかを具体的に学びたいと考え、拝聴した。講演では、みなかみ町の事例や地域活性化センターの取組、ご当地グルメの光と影が示され、外部依存の功罪が語られた。開発型の企画は話題になりやすい一方、地域で日常的に愛される核がなければ続かず、担い手疲弊や模倣競争、外部業者への依存が進むと地域に残りにくいという指摘は現場の勘所だと感じた。

さらに、文化財保存は市町村の役割が大きいが限界に近づいていること、文化財予算の薄さが課題として挙げられ、県の関与拡大や「文化財保存活用」の議連の必要性にも触れられた。私も質問で、全国の１２９地区の重伝建を見てこられた立場から、次世代へどう知識と実務を継承しているかを尋ねた。多くの地域では大掛かりな仕組みは未整備で、アーカイブ化等が中心との話を受け、県レベルで教育として支える重要性を感じた。作った景観や制度が、次世代には負担として重くのしかかり担いきれなくなる局面が来る。人口減少を前提に、継承の設計まで含めて重伝建を考える必要を強く意識した。また、次世代が引き受けやすくするためにも、世代間の対話を支え、継承の道筋を描く視点が欠かせない――そう気づかせてくれる講演だった。

尾又　柴原智代

２月７日に冬期大学講座が開催され、田村秀氏（長野県立大学教授）が「重伝建の過去・現在そして未来－持続可能なまちづくり向けて」という題目で講演された。田村教授は、旧自治省に１５年間勤務され、その後大学教員の立場からご当地グルメなどの地域活性化に取り組んでこられ、講演は具体的で実り多かった。

ちなみに、重伝建（重要伝統的建造物群保存地区）とは、単体ではなく建物群の周囲の環境を一体に保護するものであり、２０２４年現在１２９地区（４３道府県）が選定されている。妻籠宿は、選定第一号の７か所のうちの一つであり、広さでは全国一位である。地元に住みながらそういうことを他の地域の方から聞くと、「灯台下暗し」を反省する。

妻籠宿での食に関して、「宿場町はもともと通過する場所、軽食や甘味などの選択肢が増えるとよいのではないか」というご意見をいただいた。その地域で長く愛されてきた庶民的なものが良く、新規開発したものは数年で姿を消しがちとのこと。

田村教授は１２９か所の重伝建を制覇された経験から、現場を見て学ぶことの重要性を指摘された。町主催の大人の社会見学が好評だが、東御市の海野宿の企画は無理だろうか。また、未来に継承していくには、文化資産のアーカイブ化と教育が重要のとのこと、アーカイブ化には優れた博物館があるが、重伝建という観点から捉えると教育も地域を超えて広がるかもしれないと感じた。

立春が過ぎても小雪の舞う寒さの厳しい日でしたが、４２名の参加があり、質問する方も多く、ホールの中は熱気に包まれました。

関西電力の送電線鉄塔が更新され世界に誇る妻籠の自然景観が危機！
―中山道がインバウンドの人々を引き付ける魅力―

理事長　藤 原 義 則

今日もインバウンドの人々が馬籠峠を越えて「サムライルート」のてくてく旅を楽しんでいます。一石栃立場茶屋で収集しているアンケートによれば来訪動機については表―１の通りで、自然環境と古い町並みに魅力を感じています。

妻籠宿が保存される以前は特徴がない村、魅力のない地域で、人口の流失が大きく関電発電所の無人化、営林署の統配合で限界集落への道を突き進んでいました。

「自然景観も含めて集落保存」の観点から集落保存・中山道・自然景観の３点セットで旧妻籠村のほぼ８０％にあたる１２４５．４ｈａの広大な面積が、国の伝統的建造物群保存地区に選定され、その景観が世界中から高く評価されました。また、多くの世界中のハイカーを引き付けてやみません。昨年度は世界１２５ヶ国の地域から訪れました。土の道、石畳、谷川の渓流、徳川３００年の日本の平和な雰囲気を堪能出来ると言い、馬籠妻籠宿約９ｋｍを往復する人も少なくありません。

そのような状況の中、３月２６日関西電力より鉄塔関係者が来所し、鉄塔更新について説明がなされました。この自然景観の素晴しいところに現在の送電線鉄塔の３倍弱の高さの鉄塔に更新する内容でした。現在の高さ約２０ｍが３倍近い５０ｍ程に改造する計画の提示でした。その理由は現鉄塔の老朽化・メンテナンスの合理化・合理的な送電経路等です。

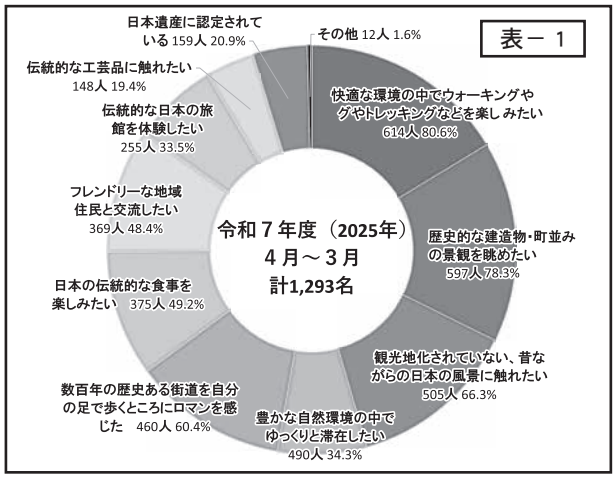
大きな問題点は鉄塔の高さです。南木曽駅から巨大化した鉄塔が目に入ります。駅のホームから見ると圧倒され、威圧感を覚えます。関電の説明によると、今年度下期より工事にかかり、令和３０年過ぎまでの予定とのことでした。その数は尾又地区から馬籠峠方向に向かう２４本が対象です。最終的には全鉄塔を対象にするようです。４０本以上と推察しています。南木曽駅上の写真にもあるように天を突きさす様に自然景観が壊されてしまいます。

愛会は組織の中に「関電鉄塔対策特別委員会」を立ち上げ対応を図ります。自然景観は、人工構築物により壊されると回復の見込みがありません。関西電力には妻籠宿の景観保存に対し多大な支援をしていただきました。送電線鉄塔の景観に配慮した塗装・妻籠発電所周りの源氏塀の説置・妻籠保存財団への支援等です。それが今回は真逆の方向になろうとは…。

〈南木曽駅ホームからの景観〉

〈三河安城駅付近〉

〈城山城址より妻籠宿を望む〉



今回は自然景観を保存することに全力を注ぎますのでご理解、ご支援願います。この問題は重伝建妻籠宿だけの問題ではありませんので全国の景観保護に取り組んでいる仲間とも連携をして支援を受けながら進めたいと思います。

全国の仲間

（公社）日本ナショナル・トラスト協会

NPO 法人全国町並み保存連盟

（一社）日本イコモス国内委員会

木曽風景街道推進協議会中山道研修　2026.3.10『芦田宿』

南木曽町産業観光課商工観光係　矢 澤 柚 衣

令和８年３月１０日に開催された木曽風景街道推進協議会中山道視察研修会に、南木曽町担当職員として参加しました。今回の視察地は立科町芦田宿とその周辺で「佐久歴史道の会案内人の会」の皆さまに案内していただきました。

最初に訪れた津金寺は芦田宿の近隣に位置し、かつては談議所として東信濃の学問の拠点で学僧の養成所でした。案内人の方々による資料や写真を用いた説明と案内人の方だからこその小話により、理解を深めることができました。

次に、笠取峠の松並木を見学しました。約２ｋｍにわたり続く松並木は県の天然記念物に指定されており、樹齢１５０年以上の赤松が往時の中山道の景観を今に伝えている貴重なものになっています。立科町では公園整備や植樹活動を通じて保全に取り組んでおり、近年では並木道を維持するために教育委員会や子どもたちによる松の植樹も行われているとのことでした。地域全体で景観維持を行っている点が印象的でした。

最後に、旧芦田宿本陣に案内していただきました。芦田宿は中山道２６番目の宿場であり、慶長２年（１５９７年）に開かれた佐久地域で最も古い宿場です。客殿または主屋が当時のまま現存しているものは、塩名田、芦田、長久保、和田、落合、草津の６か所のみです。中でも芦田、長久保、和田、下諏訪と４宿場が連続して本陣を見学できる貴重な地域となっています。芦田宿では本陣の客殿が現存しており、歴史的価値の高い建物を見学することができました。中も案内人の方が丁寧に解説していただき、旧芦田宿本陣の貴重性、歴史を知ることができました。

今回の研修では、町外の宿場の保存状態や歴史を知ることができ、大変貴重な経験となりました。

〈津金寺〉

〈松並木〉

〈芦田宿本陣〉

五月人形について

下町　グラゾフ　さやか

まだ肌寒い朝に五月人形を飾りに行くと、「やっとかめだに」「元気にしとった？」笑顔で作業をする手を止め、あたたかい方言で迎え入れてもらい、こちらも思わず笑みがこぼれる。

子どもたちの成長を祈り、また、世界中から来られるお客様たちに喜んでもらえるようにと始まったこのイベントは、老若男女が一緒になってアイデアを出し合い、助け合いながら楽しく世間話をしつつ飾り付けていく。作業は大変だけれども達成感もあり、人々との繋がりを大切にできる良いきっかけになっている気がします。

「今年も人形見るついでに顔見に来たよ」笑いながら店内に入ってくる常連さん。話を聞くと、どうやら楽しそうにお寿司を食べたり、お酒を飲んでいる人形たちが、自分や親しい友人に似ているとか。町の人々だけでなく、お客様とのご縁も繋いでくれている人形たち。

夕方、観光客も去り、静かになった妻籠宿に凛とした姿で並ぶ五月人形たちは、まるで町の人々、そして訪れる人々をそっと見守ってくれているように感じます。これからも優しく、力強く見守ってほしいと願っています。

【町道町中線舗装工事】

令和５年度から５年計画で妻籠宿内の町道歩道工事が進められています。７年度は下町三叉路から恋野防火水槽まで行われ、きれいになりました。

今年度は、下町三叉路から愛会事務所前まで行われます。来年度には寺下地区の舗装が行われすべて終了します。

（公財）妻籠を愛する会　令和８年度事業計画

１、妻籠宿保存のための調査・研究・指導・援助に関する事業

（１）現状変更行為申請受付事務及び指導・援助
（２）月例統制委員会の開催と申請事項の審議
（３）統制委員会の研修
（４）当年度建築物保存修理修景計画（南木曽町）への参画
（５）空き家に関する調査・研究・道標等の製作、講習会の実施
（６）防災施設（専用消火栓）の点検・修理計画の推進
（７）防災訓練の実施（文化財防火デーほか）
（８）全国町並みゼミ等研修会への各役職員の参加・参画

２、建造物の保存及び景観を守るために必要な維持管理・環境保全事業

（１）「一石栃立場茶屋」建物の維持管理・活用・通年開放及び周辺耕作地管理
（２）「白木改番所」の史跡公園整備
（３）中山道（信濃路自然歩道）沿線の景観整備松枯れ対応
（４）所有建造物の維持管理・活用及び貸与等
（５）板葺き石置き屋根の保存技能の継承
（６）空き家所有者の維持管理委託及び改修の推進

３、文化財の公開に必要な諸施設の設置と、その維持管理に関する事業

（１）「四阿」（妻籠城址・白木改番所）の維持管理
（２）休息施設（ベンチ等）の維持補充
（３）ホームページ等による保存事業の情報発信
（４）道標・説明板の見直しと更新
（５）民俗資料の収集・公開・活用（古い農機具を利用した体験学習）

４、文化の向上を図るための調査・普及に関する事業

（１）広報「妻籠宿」の発行配布
（２）第５９回「文化文政風俗絵巻之行列」の実施
（３）第４９回「妻籠冬期大学講座」の主催と勉強会の支援
（４）妻籠宿案内人の会への支援・育成
（５）古い時代の衣装の保存・収集・活用・着付け教室の実施
（６）妻籠及び木曽に相応した文化の伝承と開発・研究
（７）大学生等の研修受け入れ

５、文化財と一体をなす自然環境の保護に関する事業

（１）保有山林地の維持管理（スナジ地籍・西山・尾又地籍）
（２）休耕地の景観整備
（３）重伝建地域の桜・ミツバツツジ・イロハモミジ等の花木の保護・植栽・育成と景観整備
（４）妻籠城址の環境整備
（５）外来動植物の駆除

６、重要伝統的建造物群保存地区内において公開に必要とする事業の受託および支援事業

（１）町営駐車場管理事業
（２）旧妻籠中学校周辺の管理

７、関係機関、連携団体との集落保存、自然景観の保護、地域づくりに関する事業

（１）木曽風景街道推進協議会との協働活動
（２）関係団体との交流（国内外）
（３）妻籠観光協会との協働活動

８、前号までに掲げるもののほか、前号までの目的を達成するために必要な事業

（１）中央駐車場の経営及び環境整備
（２）取得資産の有効活用

令和８年度　妻籠分館行事予定

・会計監査・年度始め総会	４月１２日（日）
・環境整備	５月１０日（日）
・環境整備	６月　７日（日）
・和智埜大祭準備手伝い	７月１９日（日）
・和智埜大祭子供神輿	７月２３日（木）
・育成部行事（夏休み）	８月１６日（日）
・環境整備	８月２３日（日）
・環境整備	９月１３日（日）
・区民運動会（午前中のみ）	１０月１１日（日）
・しめ縄をつくる会	１２月２０日（日）
・町公民館大会	２月　７日（日）
・分館交流スポーツ大会	２月２１日（日）
・文化祭の準備	３月１９日（金）
・文化祭	３月２０日（土）

＊そば打ち講習会	月２回
＊ソフトバレーボール	週２回

※各団体への参加希望につきましては分館主事までお気軽にお問合せください。

宿　場　暦

2月
- 3日：南木曽町リニア中央新幹線対策協議会（理事長・常務）、撮影許可審議委員会
- 6日：三役会
- 7日：第４８回妻籠冬期大学講座（４２名参加）
- 9日：日本経済新聞社取材・撮影
- １３日：氷づくり（木曽町・常務）
- １４日：第１７回氷雪の灯まつり（常務）
- １６日：木曽谷狼煙あげ連絡会（木曽町・理事長）、観協おひな様作業（常務）
- １７日：撮影許可審議委員会
- １８日：第４回南木曽町観光振興計画策定委員会（常務）
- ２０日：統制委員会、広報「妻籠宿」１５７号発行
- ２４日：テレビ東京撮影
- ２５日：㈱交通新聞社取材・撮影
- ２６日：妻籠宿保存地区保存審議会（南木曽会館・３名）
- ２７日：木曽風景街道推進協議会てんぐ巣病駆除作業（大桑村・正副理事長）

3月
- 5日：撮影許可審議委員会、㈱日企撮影、関電来宿（鉄塔建替えについて）
- 6日：日本経済新聞撮影
- １０日：木曽風景街道推進協議会中山道研修（芦田宿：愛会より８名参加）
- １１日：撮影許可審議委員会
- １２日：妻籠宿連絡調整会議（博物館・理事長、常務）、一石栃立場茶屋薪運び作業（３名）
- １５日：フィデスコーポレーション撮影
- １６日：三役会、理事会
- １７日：消火栓点検（総務委員会主催：１１名参加）、中山道整備（一石栃：２名）
- ２３日：統制委員会、ナショナル・トラスト理事会（東京・理事長）
- ２４日：BS10撮影（～26日）
- ２５日：氷雪の灯まつり実行委員会（常務）
- ２６日：関電来宿（鉄塔建替えについて）
- ２７日：広報部会（１５８号企画）、関電鉄塔説明（県庁、東京・理事長）
- ３０日：評議員会

4月
- 1日：駐車場臨時職員辞令交付
- 3日：倉科様祭礼（参拝のみ・理事長）
- 4日：国学院下間教授・全国町並み保存連盟山本事務局長鉄塔視察（理事長）
- 6日：空き家対策特別委員会、三役会、観協五月人形準備（常務）
- 9日：関電鉄塔対策特別委員会、撮影許可審議委員会
- １３日：筑波大学大学院生調査対応（理事長）
- １４日：JR東日本撮影
- １５日：子安観音祭礼（役員参拝のみ）、松川会館撮影
- １７日：撮影許可審議委員会、テレビ信州撮影
- ２０日：統制委員会、妻籠宿有料駐車場の料金改定に係る検討会議（理事長・常務）
- ２１日：テレビ信州撮影
- ２３日：会計監査、評議員選定委員会
- ２４日：テレビ東京撮影
- ２５日：蘭桧笠生産協同組合妻籠宿実演販売（～11月15日の土日祝日）
- ２７日：広報部会、県都市まちづくり課鉄塔視察
- ２８日：令和８年度第１回木曽地域文化遺産活性化協議会文化遺産活性化委員会（理事長）、妻籠宿案内人の会役員会

景観保持のため、宿場内での路上駐車はやめましょう!

統制委員会審議事項

2月２０日
- 仮設備設置（変更）（尾又：関電）１件
- 電力線の修繕（下り谷・恋野：関電）１件
- 滝下・滝上トイレ応急対策（馬籠峠：鹿島・日本国土開発・吉川JV）リニア関連　１件
- 看板の取替（恋岩：教委）１件
- 砂利敷き追加（本陣前・奥谷入口：教委）１件
- 伐採作業（恋野：中電）１件
- 電線新設張替工事及び伐採作業（下り谷：中電）１件
- 樹木等伐採（恋野区）１件
- Ｒ７年度県単治山事業第３号工事（変更）（大妻籠：振興局）１件

[その他]
- 喜楽庵について（恋野：個人）１件

3月２３日
- 柿の木伐採（恋野区）１件
- 水舟の除却（尾又区）１件
- 水舟の更新（寺下：町）１件
- 令和８年度重伝建補助事業（一石栃立場茶屋：愛会）１件
- 令和８年度重伝建補助事業（上町：個人）１件
- 標識の設置（妻籠発電所：関電）１件
- 群状択伐（軽便道・橋場・下り谷：関電）４件
- 筍伐採（妻籠地区：関電）１件
- 引込線新設（中町：中電）１件
- 道標杭新設（中山道：木曽広域）１件（保留）

[その他]
- 所有者変更等申し出（下町）１件

4月２０日
- 配電線設備の保安伐採（期間延長）（中電）１件
- 引込線撤去工事（恋野：中電）１件
- 電線、設備装柱改修工事（吾妻洞門付近：中電）１件
- 暗渠排水処理（ふれあい館：教委）１件
- 住居改築（下町：個人）１件
- 建物内装改築（下町：個人）１件

【統制委員会からのお知らせ】

重伝建地区内で家屋の修繕等行うときには、事前に統制委員会への届出が必要となります。申請用紙は愛する会にあります。

また、補助金が出る場合もありますので、町教育委員会又は愛する会事務局にご相談ください。

発行:公益財団法人妻籠を愛する会
〒399-5302 長野県木曽郡南木曽町吾妻2159-2
TEL:0264-57-3513（FAX兼用）

脇道のこと　Part17

下町　磯 村 琢 弥

今回は城山と２５６号線の間の尾根と本丸の手水石について紹介します。

妻籠宿から２５６号線を下って行くと右手にピンクのリボンがぶら下がっている場所があります。ここから本丸へ向かって登って行きます。入ると電気会社の作業用の通路があるので最初は簡単に歩けます。

〈ピンクの目印から入ります〉

〈平地があります〉

上にはなんと平地があります。これには少し驚きました。ここから尾根に沿って登って行くと、本丸まで簡単に着いてしまいます。天正１２年の戦いの時は蘭川を挟んだ向かいの愛宕山に敵がいたそうですが、不思議と無防備です。２５６号線ができる前は蘭川からは絶対に登れない地形をしていたのでしょうか。さて次は隣の与の洞の前の尾根へ行ってみましょう。この尾根は普通に城山口から道を歩き、少し行ったところで左の笹の生い茂った所から入ります。

入ってすぐに尾根が切ってあり、しばらく歩くと笹が消えて尾根がよく見るようになります。竪堀跡のような場所と見晴台のような場所があり、尾根も歩きにくいように工夫がされています。敵が上って来る可能性があったのでしょうか。２５６号線ができる前の地形がわからないことにはなんとも言えません。しかし今でもこの尾根の先には愛宕山に続く道へと渡る橋が、巨石の上に架けてあります。妻籠城の戦いの時代もあそこで川を渡って愛宕山と行き来していたとしたら、やはり守るべき要所になるのでしょう。

〈ここを左へ行きます〉

〈尾根が切られています〉

さて最後に話は本丸にある瓢箪型に彫られた手水石についてですが、どなたか自分の曽祖父が彫ったというような話は聞いたことはないでしょうか。明治時代にお茶屋があって、芸者を呼んでドンチャン騒ぎしていた頃のものなら比較的新しい物なので、話が残っていると思うのです。まさかこの石、妻籠城の戦いで豊臣軍が使ったシンボルの瓢箪を彫ったものが現存しているなんてことはないですよね。

〈彫った方知りませんか？〉